

「家庭における読書活動」のアンケート結果

教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

社会教育委員会議では、令和元年度より「家庭における読書活動の推進」について調査研究を進め、令和元年度の調査と比較検証を行うため、今年度、再度アンケートを実施しました。その結果概要をお知らせします。

● 調査実施期間

令和4年6月1日～6日

● 対象

町内幼稚園、保育園、小・中学校
保護者および小学4年生～中学生

● 回収率

80.5% (908人 / 1128人)

「家読の日」について

毎月第一日曜日は、「家読の日」

「家読の日」の認知度については、令和元年度に比べ、大きく増加しました。園や学校の協力によるところが大きかったと考えます。しかし、依然3割以上が「知らない」と回答しているため、今後も手立てを工夫し、周知を図っていく必要があると考えます。

家庭における読書

全体としては、令和元年度に比べ、保護者も子どもも、読書をする人がわずかですが増えていきます。しかしながら、子どもは、年齢が上がるにつれて家庭での読書時間が減っていく傾向があります。



読み聞かせから読書へ

子どもの家庭での読書時間は、令和元年度に比べると全体的に増えています。コロナ禍で在宅時間が増え、読書の時間が増えたと考えます。読み聞かせは、令和元年度・4年度とも8割を超える家庭で実施されています。

読み聞かせは、本の楽しさを子どもに伝える大切な時間です。読み聞かせの楽しさから、読書の楽しさへと繋がることを期待しています。

図書館や図書室の活用

町の図書館の利用は、保護者も子どもも大きな変化はありません。学校の図書室の利用は、令和元年度より2割減少しました。コロナ禍で、貸し出し時間などの制限があったためと考えます。今後、感染症対策を行いつつ利用を促し、図書館や図書室を小さい頃から身近な場所にしていくための工夫が必要であると考えます。



読書の意義や効果

- ・ 言葉を学ぶ
- ・ 感性を磨く
- ・ 表現力を高める
- ・ 創造力を豊かなものにする
- ・ 人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないもの

子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)から

みんなで図書館を活用しましょう!

詳細は、町公式サイトをご覧ください。

